

(大正10年4月22日第3種郵便物認可 昭和17年7月15日發行(毎月1回15日發行))

建築協會
17.8.7
受付

滿洲建築雜誌

第二十二卷 第七號



室溫に及ぼす日射熱量の影響に就いて
木造小屋組部材断面算定と其繼手

社 團 入 滿 洲 建 築 協 會



高礮土質耐火煉瓦 SK#3G 以上

沖任土質耐火煉瓦 #S.K 30-35

耐酸煉瓦各種
鋪道煉瓦各種
專賣特許 鐵筋煉瓦各種
空洞煉瓦各種
機械製煉瓦各種

營口窯業株式會社

大連工場・大連市谷坊區三春橋一番地
電話(4)1097・(4)2202 (4)2836
新京工場・新京特別市長春區東安屯
電話(3)4708

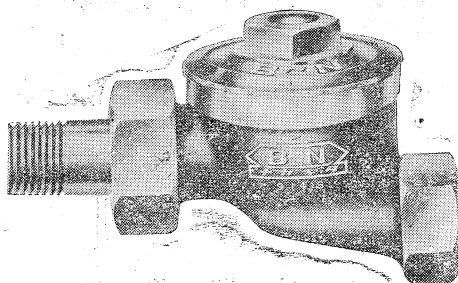


株式會社

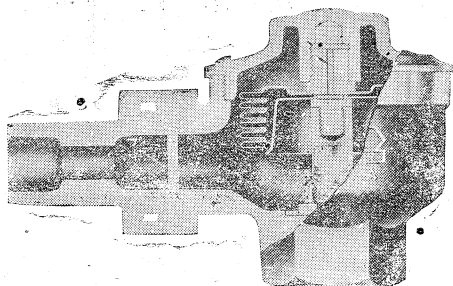
中北製作所

放熱器用 スチームトラップ

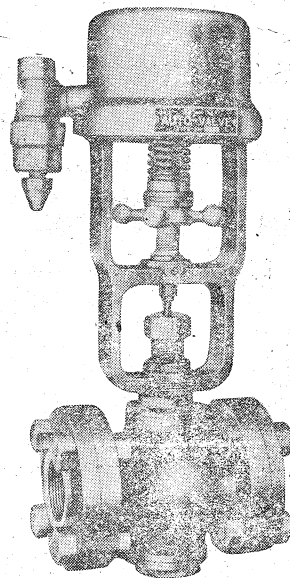
自働排水 減 壓 弁 不凍式



BN 914—S型
スチーム トラップ



BN 914—A型
スチーム トラップ



・ BN 421 號型
不凍式減壓弁

温度・湿度・壓力・水準により操作
する各種自働スネッチ・バルヴ八拾
餘種製作.....

型 錄 進 呈

株式會社 中 北 製 作 所

本社・工場 大阪市旭區蒲生町三丁目 電話堀川2713・2714・2715・5508番
東京營業所 東京市芝區金杉町四ノ二二 電話三田 1510番

滿關代理店

株式會社 安宅商會機械部
奉天市浪速通二八(都ビル)
大連市山縣通二(東拓ビル)
新京特別市八島通三八

滿關販賣店

株式會社 坂井忠商店
新京市興安通三〇 電話代蒙②2518
奉天市鐵西區嘉工街一段八 電話③3624
大連市但馬町八〇 電話②6007

(技術員常時駐在し技術上の御相談に應じて居ります)

滿洲建築雜誌 第22卷 第7號

目 次

本 文

室溫に及ぼす日射熱量の影響に就いて……………岩崎吉太郎…(1)

木造小屋組部材断面算定と其繼手……………服部逸治…(28)

經 緯

舊師……………武藤綾男…(20)

時 報

建設工業新體制……………(29)

科・技・聯・建・研會調查研究題目現狀一覽表……………(32)

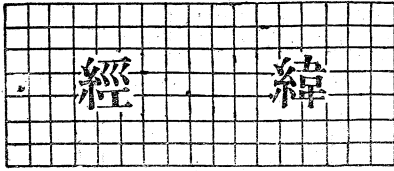
南方建築展覽會(東京)……………(37)

建築學會競技設計應募圖案募集……………(38)

會 報

常務委員總會……………(39)

大連支部解散式……………(39)



舊 師

武藤綾男

國民學校を出たばかりの愉快な程小柄な少年から徴兵検査一二年前の青年相手に建築に関する學科や實習の手ほどきをすると云ふのが私の日常の務めである。相手はどう考へてゐるのか判らぬけれども、製圖机や工作臺に小鳥が群る様に漸くつかまつてゐるといつた少年達が何時の間にか立派な技術將校になつたり或は何々主任など言つて髭を蓄へ妻子を伴ひなどして忘れずにゐて訪ねてへれることなどあるが實に嬉しいものである。色々思ひ返してみると面はゆく恥かしいことばかりであるが教師と云ふ生活をしてみると又變つた意味で御世話を受けた先生のことなどなつかしく思ひ出されるものである。

恰度青葉も揃ひアカシヤの花も咲いた五月末、恩師である東京工大のM先生が珍しく大連へ御立寄りになつたのでお願いして一兩日お伴をして子供つばい様であるが實に嬉しく思つた。

先生は旅順もまだ陥落せぬ明治37年5月から約3年餘を軍政署都督府時代の技師として大連旅順に在住せられた。旅順から東京工大へ御轉任以後始めての御來連であり實に35年振りのことである。

アジアが驛に着くのは近頃では店舗も早仕舞ひが多くぼつぼつ閉まる程の時刻になる。先生は下車早々からしきりと日本橋を氣にされてゐる様で、奉天から御同道のSさんや驛へ出迎へられたIさん等と洋車を連れねて薄暗い信濃町を通り日本橋へ出て大廣場へ向ふことにした。35年前の大連がまざまざと生きてゐるらしい橋畔で一寸と、下車せられ半身を手摺の外へ乗り出してまだ直つてゐないと呟いて居られる、不審に思つて何ふにトリグリフが間違つてゐると云ふ御返事である、一同啞然とし續いて覗いて見る。この橋の意匠が先生の手によりなされた

は聞いてゐた。工事の際オーダーのトリグリフの突出すべき面を反對に引込ませ雌型の様に誤り作つたので訂正を申し込んだのだがとの御返事である。成る程瘠せた妙な裝飾である凹面を浮き出さして考へれば立派にトリグリフに見える様である。

先生は佐渡丸遭難などと前後しての御來連である當時は戦地大連であつたであらう、橋もそこに生れた。この橋も長い間滿洲の表玄関で華やかに務めを果して來たが新驛が出來て裏街の橋と化し煤煙と塵埃に黒ずみ塞れ果てた感じである。華かな過去誤作のトリグリフ、氣にして立寄られる建築家としての先生、色々と私の心に觸れるものがある。暗い街燈の下に佇んで近頃の東支那海輸送船遭難の話や戦塵未だをさまらぬ南方に進出された技術者のことなど思ひ浮べた。

翌朝再び洋車を並べ緩かに歩かせつゝ街を見て通る。大廣場警察も當の御仕事の一つである、工事途中にこの地を去られ今朝始めて出來上りを御覽になつた由である。感慨深かげに時計塔をつけられた經緯など御話下さる。

「(大島都督の銅像)今朝散歩の折誰かと思つて前へ廻つたがすぐ判つたよ實によく似てゐる。」

「君、都督の玉突は仲々に勇しくてね、一間も逃げて居らぬと突き殺されるぜなんて副官の人々と蔭口を云つたものさ。」

ロシヤ街の當時の官舎も今變らず誰か住つてゐる様である。旅順の當時の官舎も餘り變つてゐない様であつた。舊關東廳舎も訪れた。庭に茂る松やひばを透して晩春の陽光を浴びた海面が靜かに光つてゐた。

博物館では私共二人だけであつた、館内は足音一つせぬ靜かさである。唐の貴夫人に逢ふ様だと佛頭の頬から頰に指を觸ればかりにし或は臺座に寄り添はんばかりにして美しさを味ひ得る人の喜びとでも云ふか明い調子で御話が續く。學生時代古建築見學のため先生に引卒せられて數度も關西へ旅行したことがあつたがこの一日全く同じ様な心情になる。建築を學ぶ己を省て美しきを美しと觀、良きを良しと觀る眼を深めたきものとしみじみ思つた。住宅の話なども色々伺つた。其のうち何か御書き下さるさうで今から楽しみみる次第である。